

甲賀市がめざす「新しい豊かさ」を映画で表現

「甲賀映像祭2026～紡ぐ～」にて初公開となる甲賀市を舞台にした映画「うみが通り過ぎたあとに」。

昨年6月に制作発表をしてから約8カ月間、エキストラ出演やワークショップへの参加など、多くの市民の方々のサポートがあって完成することができました。

ここでは、制作陣がこの映画に込めた想いについてご紹介します。



監督・脚本
のだ りょう
野田 亮

この映画は、このまちにたしかに存在している言葉や風景、音、そして人々の営みをそっと形にしたものです。ふだんの生活では見落としてしまいそうなことも、石の裏側を覗き込むように見つめてみると、小さいけれど手触りをもった物語として浮かび上がってきました。

映画の中には、動くものと動かないもの、言葉を交わすことと静かに見守ること、演じる人と演じない人といった、さまざまな対比が存在します。一見するとシンプルなものに思えるかもしれませんが、その間にある余白を自由に楽しんでもらえたら幸いです。



原案
いしい しんじ

うみが通り過ぎたあとに、のあとに、ひとは、さまざまなことを知った。うみと土地が、ときを、場所をこえて、ひとしなみにつながっていること。目にみえない、耳にきこえないからといって、そこに、なにもない、ということにはならないこと。音は、声は、からだは、手は、重なり、溶けあう。うみが通り過ぎたあと、ひとは、うみになれる。



映画「うみが通り過ぎたあとに」のストーリーやキャストなど詳しくはこちら



監修
やました まさと
山下 完和
(やまなみ工房)

魅力溢れる大好きなまち、甲賀市。その甲賀市で暮らしを営むすべての大切な命。2026年春、僕たちみんなの宝物が新たに誕生しました。

映画「うみが通り過ぎたあとに」。今日、そしてこれからの未来、この映画に触れたすべての人にたくさんの「しあわせ」と「やさしさ」が舞い降り、これからはまち中で愛が育まれますよう。

特集

映像で紡ぐ、 甲賀の物語



3月20日に開催する「甲賀映像祭2026～紡ぐ～」。
甲賀市が企画・制作した映画「うみが通り過ぎたあとに」をはじめ、「紡ぐ」をテーマに描かれた作品が公開されるなど、甲賀のまちが映像であふれる一日になります。
あなたも映像を通じて、私たちが住むまちの魅力を再発見してみませんか。

甲賀映像祭2026～紡ぐ～

日時 3月20日(金・祝) 9時30分

場所 あいこうか市民ホール 入場無料・申込不要